



TITLE:

昭和十五年二月末, 偶會火土金木水
五遊星干白羊宮, 是極稀見現象也,
光芒燦壯觀甚矣

AUTHOR(S):

改發, 香塢

CITATION:

改發, 香塢. 昭和十五年二月末, 偶會火土金木水五遊星干白羊宮, 是極稀見現象也, 光芒燦壯觀甚矣. 天界 1940, 20(227): 131-131

ISSUE DATE:

1940-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167962>

RIGHT:

ゐるコロナの平衡を破つて了ひ、遂には其のコロナの一部か、又は上層の水素ガス等を、外方へ噴出させることになるといふ論なのである。實際、諸遊星が太陽面に及ぼす潮汐力を計算して見ると、

遊 星	質量(地球に比し)	太陽より最小距離	潮汐力
水 星	0.0365	0.367	1.26
金 星	0.820	0.717	0.95
地 球	1.00	0.983	0.952
火 星	0.1063	1.474	0.0332
木 星	315.0	4.950	2.59
土 星	94.1	9.000	0.129

之れで見ると、火星の影響は地球の其れの29分ノ一であり、又、土星も僅かに地球の7分ノ1に過ぎぬが、木星の影響は流石に大きく、地球と金星とは殆んど同じであり、水星は、太陽までの距離が近いので、其の潮汐も、地球の13割に達して居る。此等の遊星が全部一直線に並ぶ場合に、太陽へ及ぼす潮汐力の合計は5.9142となる。しかし、之れとても、實に僅かなもので、太陽が我が地球に及ぼす潮汐力の500分ノ1に過ぎぬし、或は、月が地球に及ぼす潮汐力の1000分ノ1と言つても好いのである。著者メルダール氏は、しかし、此等の諸遊星が太陽に及ぼす影響を一々計算して、1663年から1966年まで、年々の數値をエクトル式に加算しました。其の結果、かなり複雑してはゐるが、とにかく、243年といふ週期が現はれてゐる。メルダール氏は、太陽黒點の成生や、プロミネンスの噴出などを、こうした諸遊星の潮汐で説明しやうとしてゐるが、之れは中々まだ困難だろう。

とにかく、しかし、一寸面白い考へには違ひない。

(1940. 1. 28)

昭和十五年二月末、偶會火土金木水五遊星干
白羊宮、是極稀見現象也、光芒燦壯觀甚矣。

二 兄 三 弟 舉 豪 雄
終 歲 悠 遊 西 又 東
日 沒 天 邊 放 異 彩
五 光 會 在 白 羊 宮

神戸關守畔 改 發 香 塲